



欧陽詢(唐)の九成宮醴泉銘から字を集めて、
 倣書(背臨)で書いています。九成宮醴泉銘は
 「楷書の極則」と評されている。字形は端正、
 タテ長、厳格で、切れ味鋭い筆法、背勢で
 直線的である。全体に、上に狭く、下に広い
 特徴がある。

身外満牀の書
 (杜甫)
 室内は蔵書に満ちている